

■発行/公益財団法人 愛媛県スポーツ振興事業団

■愛媛県武道館

開館時間/午前9:00～午後9:00

休館日/毎週月曜日(月曜日が休日の場合は、直後の休日でない日)
年末年始

住所/愛媛県松山市市坪西町551番地

TEL/089-965-3111

FAX/089-965-3388

ホームページ/<http://www.ehimekenbudoukan.or.jp>

予約システム/https://www.pref.ehime.jp/s_yoyaku/servlet/Top

TOPIX

第四十号

愛顔つなぐえひめ国体特集(武道9団体)
～国体を終えての報告～

- 1.合気道・少林寺拳法
- 2.剣道
- 3.柔道
- 4.弓道
- 5.なぎなた
- 6.相撲
- 7.空手道
- 8.銃剣道・平成30年鏡開き式

愛顔つなぐ
えひめ
国体特集



～国体を終えての報告～

■デモンストレーションスポーツ

合気道



開会式

■開会式イベント

少林寺 拳法



2017年9月30日、素晴らしい秋晴れの下、愛顔つなぐえひめ国体総合開会式が行われました。我々愛媛県少林寺拳法連盟は、総勢500名を超す拳士が愛媛県下より集まり、素晴らしい団体演武を披露しました。

少林寺拳法は国体種目ではありませんが、このような形で参加できたことは非常に名誉なことだと感じています。思い起こせば1年前にこのお話を頂き、小野芳洪理事長の陣頭指揮の下、事務局を中心として構想、立案、そして少ない練習の中で、何度も修正を重ね、満足のいく演武に仕上がりました。

この機会が、武道の社会に与える影響や存在意義を再考するきっかけとなり、愛媛県における武道の発展、普及の一助となることを祈っています。

えひめ国体に参加された選手、スタッフ、すべての方々、本当にお疲れ様でした。

愛媛県少林寺拳法連盟 溜池透奥太

2017愛顔つなぐえひめ国体を振り返って

第72回国民体育大会「2017愛顔つなぐえひめ国体」のデモンストレーションスポーツ(合気道)が7月30日に今治市営中央体育館で開催されました。

当日は早朝より合気道演武大会出場者、保護者、その他見学者が続々と詰めかけ、大盛況のもと、無事大会を終えることができました。

特に今回は演武大会に引き続き、合気道未体験者を対象に「合気道体験コーナー」を設け、合気道の魅力を県内外に発信することができました。

そもそも合気道は歴史的に見て、今日まで他の武道とは異なった、独自の道を歩んできました。

合気道の創始者:植芝盛平翁(1883～1969)は「真の武道はいたずらに力に頼って相手と強弱を競うものではなく、自己の人格の完成を願っての求道である。」と説き、その体現を目指す道として合気道を完成させたものです。そのため相手と優劣を競わず、日々の稽古を通して相手を尊重する心が育ってきます。合気道が「和」の武道と言われる理由がここにあります。

今回、合気道体験コーナーへの参加者の多くが「初めて合気道の技を見て、その後短い時間ではあったけど、思ったより簡単に相手を倒せる技を教えてもらいびっくりした。」と感想を寄せていただきました。

最後に、「2017愛顔つなぐえひめ国体」を機に、これからも合気道の魅力を積極的に伝えていこうと思っています。

愛媛県合気道連盟 会長 橋田 一美



第72回 国民体育大会剣道競技会「完全優勝」への道のり

執筆／愛媛県剣道連盟 事務局長 馬越 洋治

剣道



第72回 国民体育大会剣道競技会「男女総合優勝」—夢の実現—

愛媛県剣道連盟では、ここ数年来、三浦公義会長以下、えひめ国体では、「全種別優勝」「144点奪取」を掲げ、その姿勢を一度もぶれることなく計画を進めてきた。その強化策は着実に実を結び、長崎国体以来、全種別入賞が相次ぎ、いよいよ、「有言実行」を具現化する時がやってきた。

2017年10月1日、早朝6時、厳かにそびえ立つ愛媛県武道館に次々と競技役員・補助員が集まってきた。

試合は少年女子から始まった。和歌山国体では3位、岩手国体では2位、もはや優勝しかない。1回戦の相手はなんと、強豪茨城。まずは、先鋒、渡邊が的確な連続技の応酬で圧倒し、見事な2本勝ち。続く瀬尾も上段から目の覚めるような小手を連取して王手を掛けた。こうなると勢いは止まらない。会場の一糸乱れぬ拍手も後押しをして、中堅、岩中も刃筋正しく正攻法の剣道で面に飛び、一気に勝利を決定した。副将、二神は百戦錬磨の技にさらに磨きがかかり、2本勝ち。ここ一番、頼りになる逸材だ。大将、安田はインターハイ個人2位の実力者、鋭い面を連取して5対0で茨城を撃破した。続く2回戦も新潟に5対0で勝利し、ベスト4進出を決定した。続くは少年男子。1回戦の相手は、女子と同じ強豪茨城だ。

そこに、天皇皇后両陛下がお目見えになり、ほのかな笑みで会場全体を見渡していただきました。図らずも、この試合が天覧試合となり、愛媛県剣道連盟史上、最高の舞台が出来上がりました。

先鋒、屋我はスピード感溢れる剣道で面を決め、先陣を切った。次鋒、小阪も力強い技の応酬で面・胴を決め、続いた。流れは愛媛に来た。政本も威風堂々とした剣風で2本勝ちして、勝利を決定した。

両陛下も高校生のはつらつとした試合態度にご満悦の様子で席を立たれました。その神々しさと温もりに会場からはいつまでも拍手が止むことはありませんでした。

そして、副将、繁田も敗れはしたものの積極的に相手の懐に攻め込み、次に続く内容をアピールした。絶対的エース、大将、山崎も豪快な面を連取して、4対1で茨城に勝利。2回戦も宮崎を4対0で退け、ベスト4に進出した。

少年の後は、成年女子の登場、メンバーは不動の布陣だ。だが、1回戦の相手は、最強軍団の東京だ。でも、負ける訳にはいかない。その不安を一蹴したのは、先鋒、佐野の豪快な面だった。中堅、馬越は夫婦でこの大会に出場し、子育てをしながら

頑張ってきた。その苦労が一気に爆発して見事な胴を決め、試合を決めた。大将、松木もここまでチームをよく支え、勝利が決定しているものの堂々とした剣風で胴を決め、3対0で東京に勝利した。

2回戦では、2対0で岡山に勝利。準決勝では、馬越と松木が踏ん張り、2対1で長崎を振り切った。決勝戦では、佐賀に2対1で勝利し、念願の初優勝を果たした。

一夜明け、大会2日目が始まった。まずは、少年女子の準決勝。愛媛の疾風怒濤の勢いは止まらない。4対0で福岡に勝利すると、決勝では京都を5対0で勝利。会場は歓喜の渦に、本当に嬉しい初優勝。

興奮が覚めやらぬなか、少年男子の準決勝。新潟に4対0で一気に攻め勝つと、決勝では福岡に4対0で勝利し、アベック優勝を成し遂げた。

表彰式に続き、成年男子の試合が始まった。初戦の相手は、強豪兵庫。先鋒、村上は長身から得意の飛び込み面を決め、役割を果たした。次鋒、桑原もその流れを切らず、伸びのある面を連取して王手をかけた。中堅、馬越も気合いの入った躍動感あふれる剣道で見事な2本勝ち。副将、門田・大将、遠藤も勝敗は決定しているものの円熟した剣道で試合を締め括った。2日目が無事終わった。あと、一山だ。

大会3日目、最終日が始まった。成年男子は3回戦、山口に5対0で勝利し順当に勝ち上がった。4回戦でも和歌山を絶好調の前三人で勝負を決めた。準決勝も4対0で昨年の開催県岩手に勝利し、決勝にコマを進めた。決勝の相手は、東京を接戦で下した愛知。だが、愛媛の勢いは止まることなく、前3人で勝負を決め、「完全優勝」という偉業を成し遂げた。

まさに、このことは「チーム愛媛」の総合力の結集であり、長年の夢の実現でもあった。えひめ国体は成功裏に幕を閉じた。



成年男子中堅 馬越が
小手を決め、
「完全優勝」の決定的瞬間



えがお 愛顔つなぐえひめ国体で女子が初優勝

執筆／（一財）愛媛県柔道協会 強化育成委員長 中村 直紀

柔道



初優勝した女子チーム

第72回国民体育大会「愛顔つなぐえひめ国体」が第8回大会以来、64年ぶりに愛媛県で開催された。県代表として選ばれた選手は、天皇杯・皇后杯獲得を目指し、各競技で熱戦が広がられた。特に愛媛県は伝統的に武道競技が強く柔道競技にも期待がかかる中、10月7日から日本屈指の武道館である愛媛県武道館で3日間開催された。

柔道競技は本年度から競技種別が4種類から3種類へと変更となった。成年男子はブロック予選を勝ち抜いた18チーム、少年男子が各県1チームの47チームが参加、また、成年女子・少年女子は、それまでの各3人制から成年2人・少年3人の混合5人制となり、これもまた各ブロック予選を勝ち抜いた22チームの参加となった。

大会初日、まずは少年男子である。初戦は2回戦で奈良県との対戦となった。先鋒、次鋒と先取したが、副将、大将が失点するも、2対2の内容差で辛勝する。続く3回戦の相手は愛知県である。次鋒戦、先に反則を取られ苦しい展開となったが、残り40秒でポイントを奪ったのも束の間、消極的の反則を受け累積指導3回で一本負けとなる。この失点を挽回しようとして中堅戦から大将戦まで積極的に攻撃するが、決め手がなく引き分けとなり0対1で敗退、3回戦で姿を消す結果となった。



少年男子2回戦 対奈良県

大会二日目の午後から成年男子が登場、選手全員が県内出身で過去最強のチームである。初戦の二回戦、対戦相手は奈良県である。危なげなくポイントを重ね3対0で勝利する。続く3回戦の福岡県では、先鋒、次鋒、副将と勝って3対1で勝利、準決勝戦へと駒を進める。準決勝戦は昨年の覇者、東京都である。ここを突破して決勝戦へと善戦したが、結果は2対3と惜敗し、3位決定戦も千葉県に2対1で破れ4位という結果であった。

大会最終日、女子の試合である。初戦の二回戦、対戦相手は山梨県である。先鋒戦から中堅戦まで引き分けとなり、副将戦でポイントを奪われ劣勢となったが、大将戦で逆転の一本勝

ち、1対1の内容差で勝利し初戦を突破する。3回戦は、優勝候補の兵庫県である。先鋒戦を先取されるも次鋒戦で一本勝ちを奪い並ぶ。中堅戦、ポイントを奪われるも終盤に取り返して引き分けに持ち込む。副将戦、ポイントを奪われまたもやリードを許す展開となったが、再び大将戦で逆転の一本勝ち、2対2の内容差で準決勝に進出する。準決勝、福岡県戦では安定した



成年男子準決勝 対東京都

試合運びで4対0と圧勝する。そして、大声援の中迎えた決勝、神奈川県戦では、次鋒戦で先にポイントを奪われるも残り約10秒で逆転の一本勝ち、副将戦では逆に残り約30秒で押さえ込まれて一本負けとなり、試合は振り出しとなる。プレッシャーのかかるなか、大将戦で豪快に相手を投げ飛ばしての一本勝ち、2対1で愛媛の勝利、昨年のリベンジを果たすとともに、念願の初優勝が決まった。

全ての日程を終了し、男女総合で愛媛県は3位となり昨年の成績を上回ることができた。これは、地元開催ということもあり多くの観客の皆様の声援が躍動力となって、選手が畳の上で最高のパフォーマンスを発揮することでできたと思われる。また、競技役員・係員・チームスタッフ等本大会に携わった全ての皆様の力が一つになったことにより、大会が成功裏に終わるとともに優秀な成績を残すことができたと思われる。ここに感謝の意を表すとともに、今後益々、柔道の普及・発展に努めて行きたい。



女子決勝戦 対神奈川県 大将戦



えひめ国体【天皇杯1位(2連覇)・皇后杯5位】

執筆／愛媛県弓道連盟 理事長 松岡 真吾



天皇杯1位(2連覇)・皇后杯5位のチーム愛媛

愛媛県弓道連盟では、平成22年度より「2017愛顔つなぐえひめ国体」の成功を目指して、「選手育成」「施設整備」「競技役員養成」へと準備を進めてきた。

●選手育成

えひめ国体では『天皇杯1位・皇后杯1位の完全優勝』を目指して強化に取り組んできたが、4種別入賞の結果『天皇杯1位・皇后杯5位』の成績に止まった。詳細は、「少年女子：近的1位(2連覇)」「成年男子：遠的1位・近的4位」「少年男子：遠的7位」である。

大会1日目～2日目の予選で、8種別中4種別の予選落ちとなり関係者の顔色が曇った。

各チームとも入賞可能な選手で構成し、直前の練習まで十分予選通過が可能な中・得点が出せていたのに、選手に掛かる地元開催のプレッシャーを思い知らされた予選であった。



遠的競技1位(成年男子)



近的競技1位(少年女子)

しかし、少年男子の(遠的7位)を皮きりに、少年女子(近的1位)、成年男子(遠的1位)、成年男子(近的4位)と好成績が続き『天皇杯1位・皇后杯5位』の成績を勝ち取り、後へ続く本大会競技会での上位入賞への呼び水となったと確信している。

長年、選手育成に携わってきた「高校弓道部の指導者」「国体強化スタッフ」へ感謝したいものである。

●施設整備・競技役員養成

『選手が気持ちよく最高のパフォーマンスを発揮できる運営をしよう』を合言葉に、施設整備・競技役員養成を実施し、昨年6月に国体リハーサル大会として実施した「第63回全日本勤労者弓道選手権大会」の反省点を活かした施設整備・大会運営を実施した。会場係・総務係では、早朝から夜遅くまで裏方としての任務を遂行し、弓道体験コーナーでは「愛媛大学附属小学校」の児童が団体で体験したが、各クラス専用の遠的的を準備しの中箇所に名前を書き込み記念に贈呈するなど、趣向を凝らした運営を実施し喜ばれていた。また、各部門においても、運営マニュアルを順守し「日々考え、微修正を加え」ながらの運営を実施した事により、愛媛県弓道連盟会員が「自ら考え・率先して行動を起こす」事が出来るようになり、貴重な財産を得る事が出来た。この財産を将来に引き継ぐ事が大切だと感じている。

●まとめ

今大会を終えて、選手から「選手控室や弓道場の環境が良かった」「競技役員動きがしっかりしていた」「今までになく気持ち良く弓が引けた」「ボランティアの方々が優しくかった」などのご意見を頂き「競技団体」だけでなく「施設管理」「行政」「ボランティア」の皆さまを含めた「チームえひめ」の努力が評価され成功裡に大会を終えたと感じている。

最後に、本大会に携わった皆さま方に感謝して脱稿とする。

55	81
合計	合計
004	3954
9373	9703
052	7952
071	3951
321	321

成年男子遠的競技決勝(81点)

	第二射場	第一射場
少年女子	決勝トーナメント準決勝	決勝トーナメント準決勝
	○ ○ ○ 4	○ ○ × 4
	○ ○ ○ 3	○ ○ × 3
	○ ○ ○ 2	○ ○ × 2
愛媛県	○ ○ ○ 1	○ ○ × 1
	3 2 1	3 2 1

少年女子近的競技準決勝(皆中)



えがお 愛顔つなぐえひめ国体で 初の総合優勝

執筆／愛媛県なぎなた連盟 西岡 政英

なぎなた



成年選手総合表彰式 総合優勝を果たす



少年選手演技、試合、2種目優勝

去る平成29年10月1日から3日の期間に、愛媛県松山市コミュニティセンターにて、第72回国民体育大会(愛顔つなぐえひめ国体)なぎなた競技が開催され、全国各地津々浦々から選手、監督はじめ大勢の観客の皆様が来県してくださいました。

愛媛県での国体招致が決定してから、愛媛県なぎなた連盟は、天皇杯、皇后杯獲得を目標に、その活動を充実させてきました。強化については、ターゲットエイジを対象とした練習会や県外遠征を行っては修練を積み重ねてきました。また、運営側も大会の様々な場面を想定した養成会を何度も繰り返し準備を整えてきました。

天候に恵まれた大会初日、会場はたくさんの観客で埋め尽くされていました。47都道府県311名の選手が出場、愛媛県は萬家利恵監督を先頭に、成年の長澤美咲・八木夢依・村上優選手、少年の八木悠真・山口味生・神山愛姫選手が大きな拍手に包まれ入場しました。畠瀬美佐子競技会委員長から開始宣言が述べられ、オープニングプログラムが盛大に開始されました。

試合は、少年女子演技競技から始まりました。初戦から順調に勝ち進み、神山愛姫選手と八木悠真選手は高校生らしい力いっぱい演技を披露し、決勝は昨年度開催県の岩手県、全力を出し切り、終わってみると全て5対0という試合結果でした。少年演技で勢いが付き、少年試合競技では、序盤から厳しい勝負が続きましたが、会場の大きな声援を力に変え、決勝戦へ駒を進めました。決勝は石川県、先鋒の神山愛姫選手が面を取り1本勝ちで中堅へとバトンをつなぎ、中堅の山口味生選手も持ち前のフットワークを使ったすねを決め勝敗が決定しました。勝負の決まった中、大将の八木悠真選手は落ち着いた試合展開を繰り返して、3戦3勝で優勝を果たしました。続けて成年演技競技が開始され、仕かけの村上優選手と応じの長澤美咲選手は、1回戦から息のぴたりと合った演技を披露し、準決勝の大阪府戦は4対1だったものの、その他は5対0の快勝で優勝を果たしました。最終種目の成年試合競技では、初戦の香川県戦がなかなか苦戦したものの、順調に駒を進め、決勝は前年度優勝の和

歌山県、力強い勢いのある和歌山県に先鋒村上優選手、次鋒八木夢依選手と果敢に攻めるも一歩及ばず、大将戦では長澤美咲選手が意地を見せましたが、1勝2敗で敗れ結果準優勝となりました。選手、運営が一体となり、見事に初の総合優勝に輝いた愛媛国体なぎなた競技は無事に幕を閉じました。会場に足を運んでくださった皆様、大会を陰で支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。



大将、長澤選手試合



相撲

執念の相撲 傷だらけで掴んだ 総合4位 少年が団体5位。個人準優勝。成年が団体3位入賞!

執筆/愛媛県相撲連盟 理事長 龍山 義弘



●愛顔つなぐえひめ国体 相撲競技レポート

平成29年10月6日から3日間にわたり「愛顔つなぐえひめ国体・相撲競技会」が、西予市野村町の乙亥会館で開催された。競技は少年男子と成年男子の団体戦と個人戦が行われる。団体戦は少年男子(高校生)は5人制、成年男子は3人制で競われ、大会前に申請した順番で対戦して過半数勝ったチームの勝利となる。

団体予選は、47都道府県のチームが予選3試合を戦い、勝率の高い16チームが決勝トーナメント戦に勝ち上がる。競技得点を獲得し、愛媛県の天皇杯獲得に貢献するためには決勝トーナメント1回戦で勝ってベスト8(第5位入賞)まで勝ち上がる必要がある。

大会初日の少年男子・団体予選1回戦は岩手県と対戦。先鋒、二陣、中堅と闘って1勝2敗まで追い込まれ後がなくなったが副将が勝って決着を大将戦までつないだ。大将の2年生久國(津島高校)が、ひたすら前に攻める姿勢を貫き勝利を掴み取った。この接戦となった初戦で競り勝ったことがチームに勢いをつけた。予選2回戦は苦戦が予想された強豪・熊本県に4対1で圧勝。予選3回戦も茨城県を4対1で下し、3戦全勝で愛媛県は予選を通過して決勝トーナメントに進出。決勝トーナメント1回戦の岐阜県には3対2で勝利。5位以上に入賞することが確定した。準々決勝は予選で勝った強豪・熊本県との再戦となった。予選での対戦とは逆に4対1で破れたが、少年は3年連続の国体入賞となる第5位入賞。

団体戦の後に行われた個人戦では、地元野村高校3年生の住木厳太が、会場に詰めかけた満員の観衆の声援を背に受けて決勝まで勝ち上がった。決勝戦の相手は、昭和の大横綱・大鵬の孫にあたる納谷幸之介選手との対戦。全国個人優勝など実績豊富な納谷選手に対して大健闘するも破れたが、住木は地元開催の国体で個人準優勝という立派な成績を収めた。

一方、成年男子・団体戦は、昨年の岩手国体・総合優勝の立役者、中堅・和宇慶が大会1ヶ月前に出場した四国大会で膝前十字靭帯断裂の大怪我。4番手となる予備登録の田中(中央大学)も大学での稽古中に肩を怪我。本番直前にまさかのアクシデントが相次いだ。中堅・和宇慶の代わりは5番手の地元・野村町出身の原井川恵人に託すことになった。

成年男子の予選1回戦は沖縄を2対1で下し、2回戦は徳

島。3回戦は東京にそれぞれ3対0で完勝。予選3戦全勝で決勝トーナメントに進出することが出来た。

翌日の決勝トーナメント1回戦でも再度、沖縄県に勝って成年も入賞を確定させた。準々決勝の対戦相手は強豪・石川県。先鋒の吉本が突き出しで敗れ、中堅原井川の対戦相手は2年連続実業団横綱、国体個人優勝等の実績を誇る荒木関選手。他県の役員が「原井川が勝ったら奇跡。もし、勝つようなことがあったら一躍ヒーローですね。」と話しかけてきたが、私は奇跡が起こることを祈った。原井川は荒木関選手の強烈な立ち合いの当たりで土俵際に詰まりながらも渾身の突き落とし。土俵に腹這いになったのは荒木関選手だった。その瞬間、満員の乙亥会館は地鳴りのような音と割れんばかりの拍手、大歓声に包まれた。1対1の大将戦は由留部が懸命の相撲で寄り切って準決勝進出を決めたが、この相撲で由留部は左肩を脱臼して腕が上がらない状態となった。

準決勝の新潟戦。ここでも原井川が下手投げで勝利を収めるも1対2で敗退。3位決定戦では三重県に2対1で勝って、昨年に続いて団体3位に入賞した。

昨年のいわて国体では初の「総合優勝」という栄冠を獲得したが、少年団体・準優勝チームの大黒柱だった高校横綱(インターハイ個人優勝)の山口が高校卒業で抜け、成年はえひめ国体前に故障者が続出する厳しい状況の中で、地元開催なので「絶対に負けられない!」という大きなプレッシャーと闘いながら、気迫と執念で入賞(競技得点)を掴み取った愛媛県の成年と少年の監督と選手たちに心から感謝と敬意を表したい。





空手道

10月7日～9日 伊予三島運動公園体育館において 実施された愛媛国体で初の総合優勝

執筆／愛媛県空手道連盟 競技力向上部コーチ 丸石 祐成

出場選手 および 大会成績

【少年女子形】	佐々木千夏 (済美高等学校)	5位入賞
【少年男子形】	阪部 泰成 (今治西高等学校)	4位入賞
【少年女子組手】	渡邊 望茄 (松山中央高等学校)	5位入賞
【少年男子組手】	園田 雅人 (松山東高等学校)	優勝
【成年女子形】	紺屋沙也乃 (競技力向上対策本部)	準優勝
【成年男子形】	西原 啓太 (四国中央市役所)	3位
【成年女子組手】	川村 菜摘 (競技力向上対策本部)	優勝
【成年男子組手 軽量級】	水野 泰輔 (愛媛総合警備保障)	準優勝
【成年男子組手 中量級】	村上 雅浩 (今治市消防本部)	優勝
【成年男子組手 重量級】	本田 哲也 (松山市役所)	優勝
【組手団体戦】	園田、渡邊、川村、水野、村上、本田	優勝



女子総合優勝!
男女総合優勝!!

一緒に愛媛国体を目指したサプの選手たちが、試合直前まで献身的に調整につきあい、励まし、試合に送りだし、声がかかるまで精一杯の応援してくれたことも、この素晴らしい結果を生む大きな力になったと、選手はじめ関係者みんなが思っています。



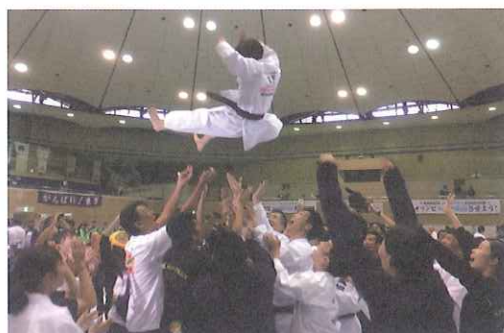
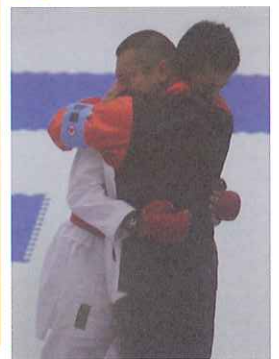
個人戦は、優勝4名、準優勝2名、3位1名、4位1名、5位2名と全選手が入賞!

団体戦決勝では、昨年の岩手国体で惜しくも敗れた東京と大将戦までもつれこむ大接戦の末、見事に優勝!! 大応援団に向かってガッツポーズ!

選手たちは、開催県での国体という重圧を跳ね返し、仲間たちの思いを胸に最高の結果を出してくれました。今までの苦労と努力がすべて報われた瞬間だったと思います。

最後に
選手、監督、空手関係者の皆様、ご家族、ご友人の皆様「チーム愛媛」最高でした! ありがとうございます!!

私は7年間にわたり稲葉監督をサポートする立場をさせていただきました。監督の最高の笑顔と涙を見ることができて、本当に幸せだと思いました。他のコーチも皆同じ気持ちだったと思います。





えひめで初の総合優勝

執筆／愛媛県銃剣道連盟 少年男子監督 丹下 隆之

銃剣道



平成29年10月7日～9日の3日間、東温市のツインドーム重信にて第72回国民体育大会銃剣道競技が行われました。

愛媛県銃剣道連盟の諸先生方の長年の活動により、平成24年度に東温高校に銃剣道部が創部され、愛媛県に少年剣士の活動の場が誕生しました。そして6年という年月が経ち、いよいよ勝負の時を迎えることとなりました。

少年男子2回戦は、鹿児島と対戦しました。3名とも堅さは見られたものの、攻めの気持ちと冷静さを忘れず、初戦を3-0で勝つことができました。翌日の準決勝は、7月に行われた第29回全国高校生銃剣道大会の個人戦優勝、準優勝の選手を先鋒と大将に要する神奈川県との対戦となり、本大会最大の山場となりました。強豪大分県に惜敗した成年男子の悔しさ、思いも背負い、試合に挑みました。先鋒の青木(蓮)が、前半、神奈川県の持ち味である高い攻撃力にやや押され気味であったものの、得意の下胴を決め、その後相手の起こりを捉えて一本を

取り、大きな1勝を勝ち取りました。続く中堅戦、青木(棕)が延長戦までもつれる大接戦のなか、全力を尽くして判定勝ち。2-1で愛媛県の決勝進出が決まりました。

そして決勝戦は、滋賀県との対戦でした。「最高の舞台上、最高の試合、最高の結果を」を合い言葉に、会場の大声援を力に変え、必ず勝つという強い思いで臨みました。先鋒の青木(蓮)、中堅の青木(棕)、大将の沖原まで、全員が持てる力をすべて出し切り、悲願の第1位、日本一を勝ち取ることができました。優勝の瞬間には、色んな思いが交錯し、今までに味わったことのない不思議な感覚でした。

このような最高の結果が残せたのも愛媛県銃剣道連盟、自衛官の方々、保護者の皆様のご理解、第1期生から始まる卒業生の努力、他の部員の頑張り、応援してくださる校内外の皆様、そして白石史史先生のおかげだと感謝しております。本当にありがとうございました。

平成30年 鏡開き式



記念品の配布や餅まきも行いますのでぜひご来館ください!!

- ところ/愛媛県武道館
- とき/平成30年1月8日(月・祝) 9:00～

愛媛県武道館ホームページ

